

ウクライナ国民への高森町の人道支援…その経過と現状、今後

No.5…2022年4月25日Pm修正後 総務課まとめ資料／公開用

2月24に始まったロシアのウクライナ侵攻により、今もなお多くのウクライナ市民が重大な困難と危機に瀕しているとの報道に接します。

長らく町ぐるみで平和を希求してきた高森町は、当町で空手道場を有するNPO法人「日本武道総合格闘技連盟空手道禅道会」の首席師範である小沢隆さんと連携し、人道支援を進めます。

1 募金活動

禅道会ウクライナ支部を通じた現地支援活動等に充てるため、3月上旬から役場などで募金を開始。その後は町内のコンビニなどにも広げ計11か所に募金箱を設置して継続中です。

3月26日には「わかもの特命係」が、4月17日には中学生20数名が、パース高森店等で禅道会の皆さんと共に募金活動。また、商工会の呼びかけで多くの商工会員より計70万円余の寄付金が集まり、4月15日に町長に託されました。これまでの募金・寄付金等は総額約150万円で、このうちの一部は禅道会を通じて現地に送金済みです。



▲3/26わかもの特命係



▲4/17中学生の募金活動

2 避難民の受け入れへ

1) 現状

ウクライナの情勢は日に日に深刻さを増し、今や450万人超とされるウクライナの人々が国外への避難を余儀なくされています。

そこで当町では、禅道会のウクライナ支部等を通じ、日本への避難を希望するウクライナ市民9名を人道支援として受け入れるべく、準備や調整を進めています。

受け入れ予定の9名は…計4世帯で、30～40代の母親が3名・3～19歳までの子女が6名との情報を禅道会経由で入手しています。この皆さんは、いったん隣国のポーランドに出国して、日本大使館に日本渡航の手続きや飛行機の手配をリクエストしているそうです。大使館側とのやり取りと並行して、4月20日に募集が始まった日本財団の支援による渡航チケットの手配も検討中とお聞きしています。

2) 支援体制

恐らく近いうちに日本への渡航の時期や手段などが決まることを踏まえ、禅道会の皆さんと協力して、高森町内の住居など生活環境を用意し、保健福祉医療、幼児も居ることから子育て支援、教育環境や日本語教育の機会も整えたいと考えています。そのため、高森町では、4月20日に全庁一丸のプロジェクトチームを次の通り設置し、情報収集や準備を始めました。

└統括；副町長

- └●庶務全般 ⇒総務課（企画振興係）…各種機関との連絡調整・助成金・情報管理・広報など
- └●住居等の確保 ⇒建設課（町営住宅等の活用）…県営住宅の協力要請なども含む
- └●子育て・教育・日本語教育等 ⇒教育委員会…関係機関に多文化や言語の支援要請なども含む
- └●その他生活全般 ⇒健康福祉課・産業課・環境水道課・税務会計課

3) 当面の受け入れ計画 …当町へのご到着は 最速で4月30日頃を想定

- ①空港到着後は、町が運行を委託したバスでお迎え
- ②当初の2週間程度は、町内の温泉宿泊施設「湯が洞」に滞在（計 2部屋・4間）
- ③コミュニケーションを確立して当人のニーズを聞きつつ、自立の生活が可能な住居に移る
…5月中旬頃より ⇒町営住宅や民間アパート、空き家などの確保と、家財道具や什器、衣食等の確立を同時に図る
- ④数か月先には、就業先の確保なども必要となる
- ⑤支援活動全般では、禅道会の人的な協力を得る（特にコミュニケーションや精神的な支え）

4) 費用負担や財源について

受け入れには、日本政府や日本財団等の支援制度をフル活用しつつ、そのほかにも長野県や民間などに様々な支援を依頼すると共に、長期化する場合にも備えて更なる募金や寄付金も必要になると考えられます。

当町としては国の直接支給や財政措置を前提としながらも、当面は即座に必要な経費が見込まれるなら補正予算等での対応も検討しています。

▼4月20日以降のプロジェクトチーム等の動き

- 1) 以上のうち4月19日現在の内容を4月20日（水）開催の議会；両常任委員会で報告。
- 2) 4月20日（水）16：30には第1回プロジェクトチーム会議を開催。各担当課による現時点での準備等の状況を共有し、今後の課題や活動内容を具体化。
- 3) 4月25日（月）15：30から第2回会議を開催し、会議後に報道機関等を通じて以上の決定事項を公式に発表しました。

高森町ウクライナ国民人道支援プロジェクトチーム

代表；高森町長 壬生照玄

本部長；副町長 藤田柳治

事務長；総務課長 中塚英幸（本件お問い合わせ先）

Tel. 0265-35-9402 Fax. 0265-35-8294

E-mail：soumu@town.nagano-takamori.lg.jp